



# 多文化共生海外派遣研修（マレーシアコース）報告 2023.2.14

✓ 本研修は「多文化共生社会の実現に向けた意識を醸成するとともに、世界的な課題解決に取り組む態度を育成する」ことを目的に、東京都教育委員会により 2024.1.29～2.3 に実施されたものです。全参加生徒は 12 名、参加校は都立八潮高校、都立八王子東高校、そして都立成瀬高校です。構成は男子 2 名、女子 10 名、成瀬高校は 1 年生 4 名（男女各 2）、他 2 校は全て 2 年生です。



## ✓ 事前研修 12月・1月

4 名は創価大学 杉本一郎教授、JICA 職員 村田広志様より講義を受け、マレーシアへの理解を徐々に深めていきました。また、現地高校での交流内容を考え、現地大学で実施予定のプレゼンテーション中間発表などを行いました。

成瀬高校では、11月に「海外高校生招聘事業」でマレーシア高校生 12 名をお迎えし、1 日交流を実施した経験から、彼等の素晴らしさに圧倒されました。その経験から、プレゼンテーションのテーマを

「両国の英語教育を比較し、自分たちに必要なことは何か」としました。中間発表では、他校のプレゼンテーションに質問はできても、まだ深く考えることは難しく、同時に「自分たちの発表のゴールはどこにあるのか？」とアドバイスを受けました。自分たちの仮説をどこに定めたらよいのか？答えはすぐには出ず、葛藤する日々が続きました。両国や英語を母国語としない近隣国との英語力の比較、カリキュラムの違い、各調査などを調べるうちに、仮説は「プレゼン力、リーダーとなる力を身に着けるべきではないか」となり、仮説の検証を現地学校交流にて行う形となりました。

4. How to improve positivity

✓ Presentations

✓ Becoming a leader

▶ We want to know the differences in positivity and communication skill between Malaysians and Japanese people

## 1日目 1月29日（月）

町田よりリムジンバスで成田空港へ。8 時間弱の長時間フライトの後、クアラルンプール国際空港へ到着しました。熱帯雨林気候で年間平均気温 27～33 度、時折スコールがある蒸し暑さです。

✓ 生徒の感想：上空からみたマレーシアは直線上に区切られた農地が目立ち、プランテーション農業が盛んなことがよく分かった。想像より建物が高く、きれいで、密集している。テレビや本、ネットに書いてあるものを見るだけではわからないことが多くある。



## 2日目 1月30日 (火)

### ✓ 在マレーシア日本国大使館表敬訪問 Japanese Embassy

齋藤幸義一等書記官より講義を受けました。(大使館の役割、日本とマレーシアの二国間関係、国際社会の平和、開発協力、国際経済システム強化、日本についての理解促進、日本人の支援などについて) 質疑応答の時間では生徒達から活発に質問があり、その一つ一つに丁寧に答えてくださっていたことが印象的でした。またご自身のキャリアもお話しになり、高校生に向けて「すべてに興味を持ち続け、チャレンジしよう」と熱いメッセージを下さいました。

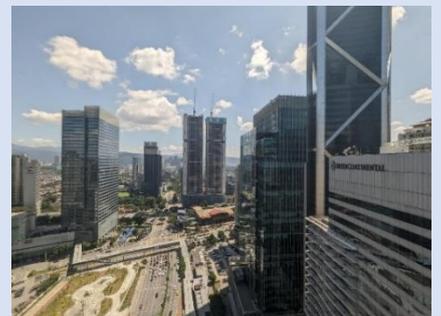


生徒の感想：大使館の重要な役割を学ぶ。東方政策が日本とマレーシアの関わりを深めたことを知った。マハティール首相がマレーシアの若者を日本に連れてきたことが影響している。マレー系の人達が70%で多くを占めている。また、マレー系の人達は多産で現在の日本とは対照的であり、今後も人口増加が予測されるとのこと。その勢いを感じた。



### ✓ JICA (国際協力機構マレーシア事務所) 訪問 JICA MALAYSIA Office

JICA 職員ボランティア事業担当、大井様より講義を受けました。(マレーシア JICA 事務所について、実際に行っている事業などについて) 大井さんは元製薬会社勤務です。別の職員さんは元看護師でした。実際に海外で働く日本人の方々には、様々な職歴があることを知りました。また、日本よりインターンシップで来ていた大学生の志を聞くこともできました。国際開発協力を将来仕事として希望しているそうです。高校生に向けては「社会人としての基礎が、今自分の仕事に役立っている。英語+多言語の習得はさらに仕事に役立つ」と語って下さいました。高校生が憧れを持ったことは間違いありません。



### ✓ MJIT マレーシア日本国際工科院 Malaysia Japan International Institute of Technology

2011年にマレーシア工科大学(UTM)の一学術機関として設立されました。日本型工学教育の理念に基づき、研究室単位での共同的研究を実施する研究室(iKohza)教育を導入し、日本の大学との活発な共同研究や人材交流を実施しています。副学院長福田様、JICA 専門家浜田様より概況について講義がありました。





2023年時点で、日本の国際競争力は35位であり、マレーシアは27位となっており、相互の互換関係を強化することがさらに必要と感じました。質問する学生はやはり成績が優秀だそうです。ここでも質問力の重要性を感じました。その後、各ラボで教授の方々から研究の説明を受けました。

### ✓ JLCC Japanese Language & Cultural Center

JICA 日本語教師のお二人の取り組みを紹介していただきました。大学入学予備コース指導、文化イベントやよさこい部、日本食の調理体験など、お二人は様々な活動に取り組まれていました。「オンライン日本語カフェ」に、今後ぜひ参加させて欲しいとお願いしました。マレーシア大学生の皆さんと、オンラインで会えることが楽しみです。

### 3日目 1月31日 (水)

#### ✓ 文化施設訪問カンポンビジット (ハングリス村) Kampung visit

マレー語で「村」を意味するカンポンの一般家庭にホームステイし、日常の暮らしやその土地の文化、風習に触れる異文化体験プログラムに参加しました。まずは農業体験（アブラヤシ収穫の様子、天然ゴム、マレーコーヒー収穫体験）に続き、伝統的な住居で民族衣装体験、伝統ゲームを楽しみ、昼食にはホストマザーの手料理を頂きました。右指を使つての食事（カレー）に挑戦しました。



✓ クアラルンプール近郊視察（プトラ広場、プトラモスク（通称「ピンクモスク」） Putre Mosque

プトラ広場とは、マレーシアの国旗と 13 州の州旗が立つ円形の広場で、1999 年に首相府を移転させ新首都となったそうです。イスラム教の教えに従い、女性は髪を覆います。建築の素晴らしさに心を奪われると同時に、日本語堪能なマレー系ガイドさんのお話に、自分自身の内面と向き合う気持ちになりました。イスラム教とは。私たちは、単なるイメージのみで自分の思考や、理解することを止めていないか。



✓ アロー通り視察 Alor street

屋台やレストランが並ぶ、活気溢れる通りを見学し、ドリアンの試食にも挑戦しました。まさに「多文化共生」を示すマレー語、中国語、アラビア語、英語などが看板に隣り合い並び立っています。中国の旧正月「春節」を間近に控え、赤を中心とした装飾が多く、目を惹きました。

**4日目 2月1日 (木)**

✓ 学校訪問（カジャン中等宗教学校 SMAP KAJANG

いよいよ学校交流と大学生へのプレゼンテーションの日です。前夜ギリギリまで生徒達は学校交流とプレゼンテーションの準備に余念がありませんでした。予想を遥かに上回る熱烈な歓迎を受けた後に、生徒達はバディとともに授業を受けました。どの教室も先生が問いかけると、それにしっかりと答える生徒達。活発な意見交換や、教え合いがありました。また、カジャン中等宗教学校の皆さんはとてもフレンドリーでした。いろんなことに興味を持ってくれる。では私たちは相手に対してどうなんだろう？振り返る瞬間が多々ありました。言葉がわからなかったらさりげなくフォローしてくれる優しさ、アイコンタクト。数多くの質問。相手を尊敬し、より理解したいという気持ちがまっすぐに伝わってきました。成高生を含めた参加生徒の表情はみるみる変わっていきました。



✓ 国立マラ工科大学 Mara University of Technology(UiTM)

マレーシア最大の国立大学 (全 13 州に 35 キャンパスを持つ) を訪問し、キャンパスツアーとプレゼンテーションを行いました。大学はとても広大であり、技術がとても発展していることがわかりました。ここでも学生の優しさに触れ、また私たちのプレゼンテーションに対し、多くのフィードバックを受けることができました。八王子東、八潮の生徒も素晴らしいプレゼンを披露しました。



## 5日目 2月2日 (金)

- ✓ 国立博物館 National Museum 国立モスク National Mosque
- ✓ ムルデカスクエア (独立広場) Merdeka Square バトゥ洞窟 Batu Caves



国立博物館では、マレーシアの歴史（ポルトガル、オランダ、日本、イギリスの統治を経て1957年に独立、1963年に13の州と3つの連邦直轄領からなるマレーシアが成立）を学びました。また、ヒンドゥー教寺院があるバトゥ洞窟ではイスラム教との違いを感じながら272段の急階段を上りました。

## 6日目 2月3日(土)

成田空港に早朝無事に到着し、解散しました。初日は各校でまとまっていた生徒達は次第に打ち解け、最終日には全員が仲間となりました。成果発表会まで、各自学校で最後のプレゼンテーションをまとめます。1年生4名は今後も仮説の検証のため、調査探究活動を続けていきます。

### 生徒の感想(抜粋)

- ✓ 事前学習で、マレーシアについて知識がついていくのは面白かったです。知れば知るほどマレーシアに興味湧いて来て実際に行ってみたくて確かめたいという気持ちが高まりました。実際に行き、マレーシアの雰囲気は日本と全然違うことがわかりました。フレンドリーな人が多く、恥ずかしがる人もいなく、授業も生徒が積極的に取り組んでいるイメージがありました。私は特に大学で聞いた「日本人は積極性が足りない」という言葉が印象的でした。私たちは「質問をたくさんしましょう」とよく言われますが、そもそも疑問に思うことが大切で不思議に思える積極性が必要なのだと思いました。その上で果敢に質問することが大事だと分かりました。
- ✓ 私は周りの反応を気にしてしまうことが多いです。日本人の多くはそうだと思います。そこがマレーシアと日本の違いだと思います。
- ✓ マレーシアは自然と経済発展のバランスがいいのではと思いました。
- ✓ 実際に現地の英語の授業で先生が生徒に問いかけると全員で答えている様子が印象的で自主性の違いがここからも分かった。
- ✓ 成果発表会に向け、もう一度自分にできることを考えて、他の人に頼りすぎないようにしたい。
- ✓ 11月に成瀬高校にマレーシアの生徒をお迎えしたが、もっと周りの人を巻き込んで話すべきだったと思った。事前研修ではあまりスライドがうまくいってなかったが、現地に行った時原稿を見ず発表ができて最終的にはいいものになったと思った。今回の研修で1番印象に残ったことは、高校生との交流で、マレーシアの文化や国民性など身近に見ることができた点です。この研修を通して相手に伝えよとする意識を持つことを大切にしていきたいと思った。先生には、感謝の気持ちを伝えたい、友人には海外に行くことを勧めたい！

### 最後に

- ✓ 本研修を通して、4名の生徒に大きな学びと成長がありました。この経験をきっかけにグローバルな視野を持ち、自身のキャリアに生かして欲しいと思います。また引率者としても、国際理解教育の重要性を強く感じ、今後もその推進に一層力を尽くし、生徒と共にこの経験を広く共有していきます。本研修に御尽力下さった全ての皆様、八王子東、八潮の仲間にも心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

